

平成30年12月7日

各位

会社名 株式会社マネーパートナーズグループ  
 代表者名 代表取締役社長 奥山 泰全  
 (コード番号：8732 東証第一部)  
 問合せ先 取締役CFO 中西 典彦  
 (TEL. 03-4540-3804)

## 平成30年11月次 月次概況（速報）のお知らせ

平成30年11月次の当社グループの月次概況（連結ベース）を下記のとおりお知らせいたします。なお、営業収益及び外国為替取引預り証拠金は速報値であるため、決算発表時の数値と異なる場合があります。

## 記

年 月	平成30年3月期											
	平成29年									平成30年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業収益 (単位：百万円)	469	488	449	404	489	539	483	482	607	552	499	562
外国為替取引高 (単位：百万通貨単位)	63,192	72,786	82,184	88,166	117,248	143,437	115,410	122,896	81,853	142,982	164,784	129,679
外国為替取引口座数 (単位：口座)	298,467	300,139	301,557	303,106	304,509	306,001	307,465	308,647	309,873	311,645	313,167	314,547
外国為替取引預り証拠金 (単位：百万円)	59,995	61,529	62,091	62,774	63,253	64,734	63,512	61,675	61,378	62,789	62,309	61,758
一般顧客	50,108	50,819	51,353	52,431	53,410	54,057	55,014	55,820	55,367	57,073	57,628	56,966
金融法人（B to B）	9,886	10,709	10,737	10,342	9,843	10,676	8,498	5,854	6,010	5,716	4,680	4,792
マネパカード口座数 (単位：口座)	77,503	81,189	85,019	90,702	97,327	101,409	104,187	107,082	110,964	116,830	119,853	122,719

年 月	平成31年3月期											
	平成30年									平成31年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業収益 (単位：百万円)	536	519	478	439	670	606	476	435				
外国為替取引高 (単位：百万通貨単位)	91,552	116,599	101,591	92,238	107,310	84,706	118,371	96,598				
外国為替取引口座数 (単位：口座)	315,872	317,341	318,698	319,983	321,275	322,271	323,931	325,232				
外国為替取引預り証拠金 (単位：百万円)	62,379	61,817	63,050	63,736	62,506	62,707	62,428	62,361				
一般顧客	57,653	57,015	57,840	58,372	57,290	57,094	57,455	57,530				
金融法人（B to B）	4,725	4,802	5,209	5,363	5,216	5,613	4,973	4,831				
マネパカード口座数 (単位：口座)	124,965	129,820	134,553	137,762	139,807	141,535	143,219	144,889				

- (注) 1. 外国為替取引高は、顧客との相対取引による通貨毎の取引高を原通貨単位のまま合計したものであり、円換算は行っていません。
2. 外国為替取引口座数、マネパカード口座数及び外国為替取引預り証拠金は、それぞれ月末時点の口座数及び残高であります。
3. 平成23年8月より差金決済取引（CFD）の取扱いを開始しており、CFDにおける預り証拠金、取引高（原取引単位を米ドルに換算）及びこれに伴うトレーディング収益はそれぞれ「外国為替取引預り証拠金」、「外国為替取引高」及び「営業収益」に含めて表示しております。
4. 外国為替取引預り証拠金は、一般顧客からの取引によるものとB to B取引先である金融法人からの取引によるものを区分して表示しております。

#### <11月次の概況>

11月の外国為替相場は、米ドル／円については、1ドル＝112円台後半で取引が始まり、米中通商問題への警戒感の緩和や米国中間選挙への思惑等が交錯する中、前月からの緩やかなドル高の流れが継続し、米国中間選挙において概ね予想通りの結果となったことや米国FOMC（連邦公開市場委員会）において漸進的な利上げ方針が維持されたこと等を背景に、12日には月の高値となる114円台前半まで値を上げました。その後は、英国のEU離脱を巡る「合意なき離脱」リスクの高まりやクラリダFRB副議長の利上げに対する慎重な発言からドル売りの流れとなり、米中通商問題激化への懸念が強まると、20日には月の安値となる112円台半ばまで値を下げました。その後、米国株式市場の上昇を受けて、28日には114円台まで値を上げ、113円台半ばで月末を迎えました。一方、米ドル／円以外の主要な取扱い通貨である欧州・オセアニア通貨については、EU離脱を巡り大きく動いた英ポンドを除き、米ドル／円と同様に値動きの乏しい相場推移となり、米ドル／円の1ヶ月の高値・安値の幅が約4年半振りに2円を割り込むなど、全体としての変動率は極めて低い水準となりました。

このような状況の中、外国為替取引高は、特に変動率が低下した米ドル／円を中心に減少し、前月比18%減少の965億通貨単位となりました。一方、営業収益は、相対的に収益性の低い米ドル／円の取引高割合が減少するなど全体としての収益性が若干改善したことから、435百万円と前月比9%の減少にとどまりました。また、顧客基盤については、外国為替取引口座数は前月比1,301口座増加の325,232口座、マネパカード口座数は前月比1,670口座増加の144,889口座と堅調に増加した一方、外国為替取引預り証拠金は、顧客の含み損益が大きく改善した反面出金も増加したことから概ね横這いとなり、前月比67百万円減少の62,361百万円となりました。

以 上